

ユニークな  
地質系博物館  
(21)

# 日高山脈館

小野 昌子<sup>1)</sup>

## 1. はじめに

平成11年6月, 北海道中央部, 日高町に日高山脈館がオープンしました(第1図).

日高町は, 日高山脈えりも国立公園の北のふもとにある高原の町です. 町内には沙流川が流れ, 町の94%を森林が占める“せせらぎと木もれびの里”です. 一方, 日高町の位置する北海道中軸部は, 地質学的にも見所が多く, 現在でも活発に研究が行われております.

### (1) 日高変成帯

日高町東部を通る日高山脈の地質は, 島弧性地殻を構成していた日高変成帯(主帯)が西側の変成した海洋性地殻(ポロシリオフィオライト)に衝突して, めくれあがってできた(例えば, 小松ほか, 1982)と考えられています. さらに, 最近のパイロサイス調査の結果から, 日高山脈の地下では地殻のデラミネーションが生じている可能性が指摘されており(例えば, 伊藤, 1999), 平成11年度には日高町付近を通る北海道横断の大規模な人工地震探査が予定されています. この日高変成帯には, かんらん岩, はんれい岩や花こう岩などのほかに, 角閃岩, グラニュライトなどの変成岩が分布しています.

日本初のピリディン片岩も発見されています.

### (2) 神居古潭帯

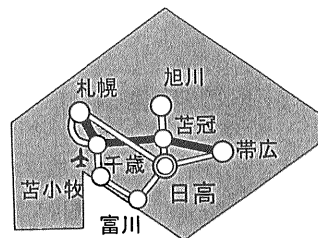
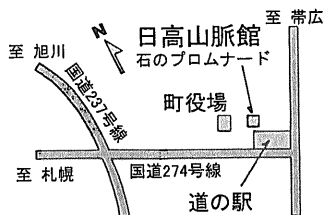
日高町西部には, 神居古潭帯の蛇紋岩や変成岩が南北に帯状に分布しています. この地域の神居古潭帯においても, かつて多くの場所でクロム鉱や石綿などが採掘されていました. 現在でも岩内岳においては, 大規模なかんらん岩の採掘が行われています. また神居古潭帯は, 「日高ヒスイ」(chromian diopside)を産出したことでも知られています.

### (3) イドンナップ帯および蝦夷累層群

日高変成帯と神居古潭帯の間には, イドンナップ帯と蝦夷累層群が帯状に分布します(たとえば, Kiyokawa, 1992). イドンナップ帯は白亜紀~古第三紀の付加体と考えられています. 蝦夷累層群は白亜紀の前弧海盆堆積物で, アンモナイトやイノセラムスを産出することで知られています.

## 2. 本館の特徴

このような「地質博物館」あるいは「自然史博物館」としての材料が豊富な日高町の地理的優位性



第1図  
日高町と日高山脈館  
の位置図.

1) 日高山脈館:  
〒079-2301 北海道沙流郡日高町字日高297-12  
TEL: 01457-6-9033 FAX: 01457-6-3855 (教育委員会)

キーワード: 日高町, 北海道中軸部, 日高山脈

4F 日高山脈展望台

3F 日高山脈の生き物(高山植物・動物)紹介と山と人間の関わり

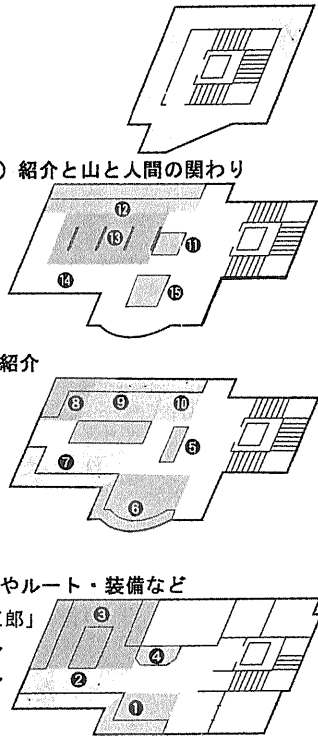
- ⑪ 氷河地形
- ⑫ 日高山脈のいきもの
- ⑬ 日高山脈の植物
- ⑭ 日高山脈と産業
- ⑮ 日高山脈Q & A

2F 日高山脈の成り立ちと地質・岩石の紹介

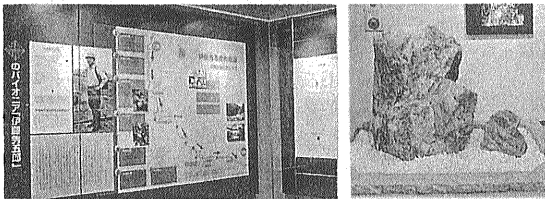
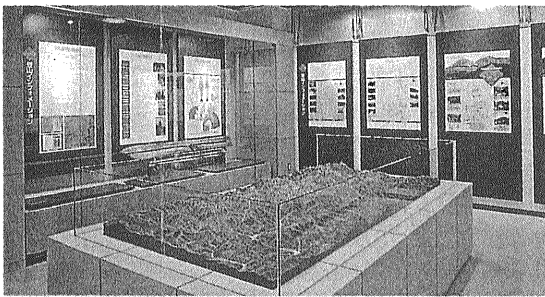
- ⑤ 岩石・鉱石・化石シンボル展示
- ⑥ 北海道と日高町の地質
- ⑦ 日高山脈の地質と岩石
- ⑧ 日高町周辺の化石
- ⑨ 岩石のいろいろ
- ⑩ 日高山脈と地球のしくみ

1F 日高山脈の山々の紹介と登山の歴史やルート・装備など

- ① 日高山脈のパイオニア「伊藤秀五郎」
- ② 森林ウォークインフォメーション
- ③ 日高山脈登山インフォメーション
- ④ シンボル(日高ひすい)展示



第2図  
日高山脈館の内部展示説明図。



第3図 日高山脈インフォメーションの展示。  
上:日高山脈森林ウォークインフォメーション&登山インフォメーション。  
左下:日高山脈のパイオニア「伊藤秀五郎」。  
右下:日高ヒスイ。

を生き、日高山脈をメインの題材にして作られたのが日高山脈館です。

本館の展示内容を、以下に説明いたします(第2図)

1F:日高山脈インフォメーション(第3図)

- ・山に魅せられた人たちの足跡-特に伊藤秀五郎さんを取り上げて-
- ・登山, 森林ウォークの主なルート案内
- ・日高山脈北部のジオラマ(1/30,000)

2F:日高山脈の成り立ち

- ・日高町の地質図(開館にあたって再調査, 修正=続行中)
- ・町内に分布する地質がどのようにしてできたかを解説(日高変成帯を中心に)
- ・町内で見られる石を展示, 一部は顕微鏡で観察可能
- ・プレートテクトニクス(付加体)の模型

3F:日高山脈の自然(第4図)

- ・氷河地形の紹介(幌尻岳ジオラマ)
- ・日高町の産業(鉱業・林業): 鉱床サンプル展示(主に番場コレクションより)

- ・高山植物の写真パネル
- ・北海道でよく見られる樹木の立木サンプル
- ・ナキウサギ模型(剥製ではありません)

#### 4F: 展望台

- ・日高町市街地と周辺の山並みが見渡せます。

#### 1F奥: 調査員研究室 & 薄片室

さらに、日高町付近に調査に来られる際は、本館にお立ち寄りいただいて、以下の施設をご利用いただけます。

##### (1) 調査中、または終了直後に薄片製作が可能(無料)

大カッター、研磨機2台、ガラス板などを備えた薄片室があります。消耗品類は山脈館で用意してあります。詳しくはお問い合わせをお願いいたします。その場で記載したい方には、Nikon ECLIPSE(反射装置付き偏光顕微鏡)とNikon SMZ800(実体顕微鏡)をお貸しします。

##### (2) 今どこのあたりに誰が調査に入っているかわかる

調査に来られた方に、2Fの地形図ボード(“地質みどころマップ”)へ名前・所属と調査範囲を書き込んでもらいます。できればごく簡単な研究紹介(発表済みのもので可)をつけていただけるとなおよし。熊出没情報などもここに記入します。

##### (3) 文献の閲覧・マッピング・パソコン作業などが可能

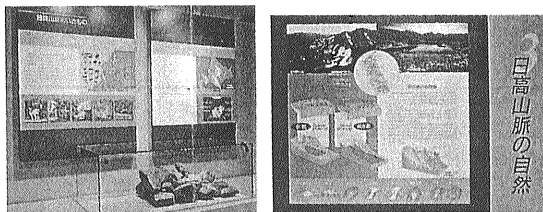
・調査員研究室に地質関係の書籍、雑誌類をそろえる予定です。日高町や周囲の地質についての文献もおおい集める予定です。

・作業用の机がありますので、マッピングなどの作業も可能。

・パソコン作業をしたい方は、少々古目ですがデスクトップパソコンをご利用いただけます。Office97は入っていますし、プリンター、スキャナも使えます。またノートパソコンとネットワークカードをお持ちなら、山脈館のルーターに繋がめますのでメールのチェックなどにどうぞ。

・調査前の情報収集をはじめ、雨の日の暇つぶしなど存分にご利用を。

等々でご利用いただけるよう考えています。



第4図 日高山脈の自然の展示。

左:日高山脈のいきもの。右:日高山脈の氷河地形。

### 3. 結びとして

日高町に来られる、また近くを通過することがありましたら、ぜひ本館にお立ち寄りください。札幌と帯広を結ぶ北海道の大動脈国道274号線沿い、道の駅「樹海ロードひだか」の隣です。なお日高山脈館のホームページも運用しております。まだまだ整備中ですが、順次更新の予定ですのでこちらもぜひご覧の上、ご意見ご感想などを下記宛にお寄せいただければ幸いです。

日高山脈館 小野昌子

hidaka3@ruby.ocn.ne.jp または

hmc@town.hidaka.hokkaido.jp

<http://www.town.hidaka.hokkaido.jp/hmc>

〒079-2301 北海道沙流郡日高町日高297-12

TEL 01457-6-9033

FAX 01457-6-3855(教育委員会)

<休館日は月曜日です。月・火曜日は日高町教育委員会(01457-6-3858)までご連絡ください。>

#### 参考文献

Kiyokawa, S. (1992): Geology of the Idonnappu belt, central Hokkaido, Japan: Evolution of a Cretaceous accretionary complex. *Tectonics*, 11, 1180-1206.

小松正幸・宮下純夫・前田仁一郎・小山内康人・豊島剛志・本吉洋一・在田一則(1982):日高変成帯における大陸性地殻-上部マントル衝上帯の岩石学的構成。岩鉱特集号, no. 3, 229-238.

伊藤谷生(1999):島弧衝突下のデラミネーション-ウエッジ構造と大陸地殻成長。1999年地球惑星科学関連合同大会, Ga-P010.

ONO Masako (1999): Hidaka-Sanmyaku-Kan

<受付:1999年6月1日>